

『(秘)色情めす市場』

1974年9月11日公開

製作…日活

配給…日活

スタッフ

監督…田中登

脚本…いどあきお

撮影…安藤庄平

照明…新川真

美術…川崎軍二

音楽…樋口康雄

録音…木村瑛二

編集…鍋島惇

助監督…高橋芳郎

配役

丸西トメ…芹明香

丸西よね…花柳幻舟

丸西実夫…夢村四郎

寺坂肇…岡本章

平林文江…宮下順子

斉藤淳…萩原朔美

あらすじ

19歳のトメは、大阪の西成で、組織や店に属せずに街娼をしている。知的障害を持つ弟の実夫と共に暮らし、同じく娼婦である母のよねとは客を巡って常に言い争っている。ひょんなことからトメは、強盗殺人の容疑で指名手配されている男とそっくりな寺坂に出会う。やがて二人は娼婦と客ではない関係を築き始める。一方寺坂と同じアパートに住む平林は、駆け落ち相手の斉藤が会社の金を使い込んでしまったために、かつてのトメのように小料理屋の2階で売春をすることを決意する。だが斉藤はそれを受け入れることができない。ある日トメは、突然よねから妊娠したと告げられる。また別の朝、今度は実夫が家を出ていってしまうのだが…。西成のドヤ街を生きる登場人物達の物語が断片的に交差する。

解説

1971年の『団地妻・昼下りの情事』に始まる日活ロマンポルノを代表する作品。監督の田中登と脚本のいど・あきおは、本作を含む5本でタッグを組み、キャストの芹明香や宮下順子らは数多くのロマンポルノ作品に出演している。ざらついたモノクロと終盤のカラーの

対比、風景に俳優を溶け込ませるようなロングショットなど技巧的な要素も目立ち、2022年には4Kデジタル修復版が第78回ヴェネチア国際映画祭のクラシック部門に選出された。当時日雇い労働者の暴動が相次いだ西成でロケを敢行したために、しばしば「リアリズム」と形容される本作であるが、改めて見直すと、ロマンポルノの慣例であるアフレコや物語の直線的な進行を妨げるような編集も相まって、むしろ全編にわたり幻想的な空気が漂う。幾度となく酷い目に遭いながらもどこか飄々とした表情や身振りを保ち続ける芹の演技も忘れ難い。

参考資料

- ・「（秘）色情めす市場」日活ロマンポルノ 作品データベース

<https://www.nikkatsu-romanporno.com/movies/2017/02/25316.php>（最終閲覧2026年10月7日）

- ・「ヴェネチア国際映画祭『（秘）色情めす市場』4Kデジタル修復版が選出！」日活ロマンポルノ TOPICS、2022年2月10日

<https://www.nikkatsu-romanporno.com/topics/2022/02/50th-venezia.php>（最終閲覧2026年10月7日）

- ・聞き手：鴫明浩『優美なる死骸遊びに魅せられた作家 プログラム・ピクチャーの遺産 につかつロマンポルノの旗手、田中登ロング・インタビュー』CineMagaziNet!. no.1. (Autumn 1996) <http://www.cmn.hs.h.kyoto-u.ac.jp/NO1/IVIEW/TANAKA1.HTM>（2026年10月7日）

（執筆：角田哲史）